

令和元年度 『第 35 回 青少年夏のつどい オーバーナイトハイク』 報告書

柏市青少年相談員連絡協議会会長 中川 早苗

夏のつどい部部长 高橋 裕馬

1. 事業名 『第 35 回 青少年夏のつどい オーバーナイトハイク』
2. 実施日時 令和 1 年 8 月 24 日（土）20:00 ～
令和 1 年 8 月 25 日（日）7:30
3. 会 場 柏市内 北部地域 約 30 k m
4. 参加者 市内在住中学生 440 名（申込者数：515 名）
組織内参加者 146 名
一般参加者 77 名
行 政 5 名
賛助会 11 名
大学生ボランティア 1 名
合計 680 名
救護 11 件 リタイヤ 3 名

5. 運行状況

	スタート	ゴール	解 散
A グループ	20:45	4:51	5:18
B グループ	21:42	6:33	7:30
C グループ	22:43	6:54	7:30

6. 活動内容

期 日	事 業 内 容
令和 1 年 4 月 14 日（日）	第 1 回部会（41 名）
5 月 11 日（土）	第 2 回部会（37 名）
5 月 18 日（土）	第 1 回下見・歩行練習（夜間・44 名）
5 月 26 日（日）	第 3 回部会（33 名）
5 月 31 日（金）	お知らせ・申込書配布（申込締切：6 月 14 日）
6 月 21 日（金）	歩行順決定会議（8 名）
6 月 8 日（土）	第 2 回下見・歩行練習（夜間・64 名）
6 月 29 日（日）	第 4 回部会（申込書参加費 受付）（34 名）
7 月 6 日（土）	第 3 回下見・歩行練習（夜間・62 名）
7 月 14 日（日）	第 5 回部会（35 名）／全体説明会（129 名）
7 月 27 日（土）	第 6 回部会（30 名）
8 月 10 日（土）	休憩所物品準備
8 月 23 日（金）	前日準備
8 月 24 日（土）～25 日（日）	第 35 回オーバーナイトハイク

7. 収入

項 目	金 額(円)	説 明
夏のつどい部予算	450,000	柏市助成金
参加費	257,500	中学生 515 人
ゆめ基金助成(仮)	270,000	安全管理費 (スポーツドリンク、レンタカー、反射材)
連絡協議会費	58,111	不足分補填
合 計	¥1,035,611	

8. 支出

項 目	金 額(円)	説 明
報償費	348,180	シリコンバンド、タオル、反射板
食糧費	298,800	完歩パン、スポーツドリンク、麦茶、ジュース
消耗品費	169,862	休憩所、救護物品 等
役務費	67,584	道路使用許可証、駐車場代、保険代 等
印刷製本費	15,720	予告ポスター、募集ポスター、大判印刷代 等
備品費	0	
燃料費	32,100	ガソリン代
賃借費	103,365	レンタカー、レンタルバイク代 等
合 計	¥1,035,611	

9. ゆめ基金助成申請 内訳

項 目	数 量	金 額(円)
星型反射板	600 個	¥45,360
スポーツドリンク・麦茶	各 1,000 本 (計 2,000 本)	¥138,240
レンタカー & 保冷車	5 台 + 1 台	¥96,515
申 請 予 定 合 計 金 額		¥280,115

10. 活動を振り返って

今年4月より始動した、第20期柏市青少年相談員。

夏のつどい部は4月14日の第1回部会を皮切りに8月の本番開催までの5ヶ月間、怒涛の如く駆け抜けて参りました。

第35回を迎えるに当たり、初任のメンバー同士がお互いの手を取り合い、とにかく何事もなく無事に今年のオーバーナイトハイクを終了させる事を目指し日夜活動を行いました。

今年のキープコンセプトは『第34回の内容を忠実に踏襲して行く』事とし、とにかくオーバーナイトハイクとはどんな事を行って行くのか、そして開催に至るまでの下準備にはどれだけの労力と時間を必要とするのかを皆で体感・共有する事で、今年はオーバーナイトハイクの基礎知識を養って行く事を目標として参りました。

開催日当日の序盤は天候にも恵まれ、開催可否を判断するのも至ってスムーズに決断を下す事が出来ました。

しかし、23時を回る頃から徐々に雨雲の活動が活発になり、最終的には通り雨の影響を受ける結果となってしまいました。

しかし各方面で活動する第20期メンバーにより、休憩時間を延長する判断や休憩所においてBとCがグループ合同で休憩を取る判断、そしてそれぞれをオペレーションする為の瞬時の判断を積み重ね、最終的には生徒を雨の中で歩かせる事無く、また大きな混乱を招く事も無く無事にゴールさせる事が出来ました。

委嘱1年目の活動の中で、これだけのイレギュラーな出来事に遭遇しても、決して物怖じせず決断を下し実行出来るメンバーと共に活動をさせていただける事は本当に誇りであると感じます。

もう既に第36回に向けた動きだしが始まります。

第20期メンバーで迎える2回目のオーバーナイトハイク。

あと2回開催出来ると考えるか、あと2回しか開催出来ないと考えるかはそれぞれの思い次第だと思いますが、私自身はあと2回皆で開催出来るチャンスをいただけていると捉え、この素晴らしいメンバーと共に今と変わらず全力疾走で駆け抜けて行きたいと考えております。

第36回オーバーナイトハイク、第20期メンバーと共に少しずつ自分たちの想いを注ぎ込んで行き、生徒にも私たち自身にも更に色濃い思い出となる様に引き続き努力して参る所存です。